

JAAC だより

特別レポート：“震災被災地、岩手県釜石市を訪ねて”（1）

— 被災者と残された人々の今 —

7月5日、6日の2日間に渡って東日本大震災の被災地の一つである岩手県釜石市を実際に訪ねてまいりました。本誌の前々号と前号でお話した、釜石市出身で栃木県在住の私の友人が親戚を訪ねて再び釜石へ行くという話を聞いて、私も同行させてもらいました。被災地で実際に私が目にしたことや、そこに暮らす人々から伺ったお話をもとに、今号から3回に渡ってご紹介してまいりたいと思います。

7月5日早朝、栃木県真岡市を出発。岩手県釜石市まで、約7時間の道のり。東北自動車道をひたすら北上し、宮城県に入ったあたりから走行するトラックの多さに驚かされた。午後2時を回ったころ、生活必需品や保存食料品を満載して友人が運転する車は釜石市に入った。釜石市の気温は27度。暑い。

まず私たちが訪れたのは、私の友人K氏の遠縁にあたるAさん宅でした。AさんとAさんの娘さんは釜石市で飲食店を営んでいましたが、震災直後の津波で店は流されました。2人は7月始めから抽選で当たった仮設住宅に移り住んでいました。まもなく90歳となるAさんは、全てを失くした喪失感から未だに立ち直れていません。そのことを気遣い、一緒に仮設住宅で暮らす娘さんの気丈さに、ただただ脱帽の念を抱くことしかできませんでした。初めて会う私に、Aさんは「あの瞬間（とき）」のことをただ繰り返し話されていました。何回も、何回も。出されたお茶を飲み干すたびに、同じ話を繰り返すAさん。それだけ、心に負った傷の深さを感じました。3月11日午後。あの日、Aさんは郵便局から当面の生活に必要なお金を下ろして帰宅して、一休みしていました。午後2時46分。突然の地鳴りの後、大きな大地の揺れ。足腰が不自由なAさんにとって、非難するまでの時間はどれほどの長さだったのか……。とりあえず必要な荷物をまとめて避難し始めたAさんはその途中で、郵便局から下ろしたばかりのお金を仏壇の引き出しにしまったままのことを思い出し、家に戻ろうとしたそうです。一緒に逃げた近所の人たちがAさんの手を取って思い止めているその瞬間、津波は足元まで迫ってきていたそうです。もし、あの時、Aさんが家に戻っていたら……。Aさんの娘さんもまた、繰り返しそのことを話されていました。

Aさんと娘さんが住む仮設住宅をあとにしてK氏の親戚の家を訪れた際、一つの出来事があった。K氏の従兄弟のお嫁さんのご遺体が昨日見つかった、とのこと。『DNA鑑定で昨日、確認されたよ』と、つぶやくように話されたK氏の従兄弟B氏。B氏には小学生と高校生のお子さんがある。彼らは、昨日まで母親の無事を信じていた、と言う。彼らは、お母さんの無事を願っていたのではないのです — お母さんの無事を信じていたのです。あの日からほぼ4ヶ月が経とうとしている今になって、その知らせは訃報なのか、それともご遺体が見つかったという吉報なのか。残された人々の心中を察することはできない。学校に行っていて、たまたま残されたBさんのお子さんたちに会えなかったのが、私にとっては幸いだったかもしれません。もし、そこにお子さんたちがいたら、私はどんなことばを彼らにかけることができただろうか。お茶をすすりながら、『この辺の人たちは皆、葬式はやらないんだよ』と言ったB氏のことばに私はことばを失った。『あまりにも（亡くなられた方が）多すぎてね……。』と、言ったB氏のことばは、ここに暮らす残された人々の現状を説明するのに十分だったような気がする。これがここの現実なのか……。被災地とは、このような所なのか……。あまりにも私たちが平穏に暮らしている世界とは違う。全てが違う。B氏の年老いたご両親が、『私たちは、もうどうなってもいいんだが、息子と孫たちがなあ……。』と言われたとき、私も思わず涙を流してしまった。B氏のお宅はやや高台に建っているが、縁側からわずか3メートルのところまで津波が押し寄せてきたそう。B氏が指差したその場所は、確かに土の色が変わっていた。津波が来たところまで、くっきりと一筋の線が入っている。

その日、私たちは1週間前から仮営業を始めたという釜石市内のビジネスホテルに泊まった。長旅の運転を労い、K氏とビールを飲みながら今日お会いした人たちのことを話し続けた。話しても、話しても、私たちの話は尽きない。高校卒業までをこの町で過ごしたK氏の思い出話は、いつまでも尽きることを知りませんでした。今日一日は、私にとって決して忘れることができない日になりました。

（カリフォルニア事務局： 照井）

一 頭脳と技術の流出に直面する日本 一

日本における産業の空洞化という問題が取り立たされているが、日本からの流出を懸念するのは決して産業だけではない。その産業の基盤を支える“人材”そのものの流出が大きな問題となっている。最近の留学事情を見ても、高校卒業後にアメリカやヨーロッパの有名難関大学へ直接入学する学生の割合が増えつつある。全体的な海外大学への留学希望者数は少子化と共に減ってはいるものの、留学先として名門校を選ぶ学生は徐々に増えている。『一過性の減少かもしれないが』と前置きしながらも、『日本の大学の魅力が薄れてきているように思う』と、私の先輩である大学教授は言う。特に大学院での専門的な研究においては、研究費の多さにも恵まれている海外の研究機関を目指す若い研究者も多いと聞く。様々な分野において産学共同の研究プロジェクトが行われているが、日本ではそのインフラ的な整備にやや遅れをとっているようだ。若い優秀な頭脳と技術を海外に流出してしまうことは、結果的に日本の国益を失うこととなる。日本の大学においても、特に科学や工学の分野では優秀な学生を確保するために特別な入試制度を設けているところもあるようだ。日本は技術立国として成り立っていること、そして、それを目指し、堅持していくことを国策として考えていくべきだと思う。大学教育だけではなく、そろそろ抜本的な教育の改革が必要ではないだろうか。教育と社会との繋がり方もグローバル化してきているのだから。(照井)

大学の新たな試み

一 就業力を身につける 一

学生の就職難が続く昨今、多くの大学では学生に就業力を身につけてもらうための様々な試みを実践している。夏季に行われる企業のインターンシップへの参加を奨励することもその一つである。また、夏休み期間中に就職活動の講習会を行っている学校もある。学生にとっても夏休み中に自分の弱点を克服したり、本業である学業の補習を行ったりすることは大切だ。最近の就職面接では、自分の専攻に関する質問も多くなってきている傾向にあるという。また、最近の調査では、「他人とうまく話ができない」学生が増えているといわれ、コミュニケーションを図る講習が民間の就活コンサルティング会社などによって頻繁に行われている。

ここ10年くらいで、日本の大学では実社会に根ざした新たな学部や学科を創設する動きが目立っている。「真理の探究」という第一義的な大学のあり方をそのままに、学生と実社会とを結ぶ架け橋となることを目指しているようだ。そのためにも、より実践的な、実社会の仕事と直結したカリキュラム構築の必要性が今後さらに進むことだろう。

しかし、日本の大学特有の考え方の上にある「人間育成」という大学の役割も大事なことであることを、決して忘れてはならないと思う。(照井)

【編集後記】 アフリカ大陸に54番目の主権国家、「南スーダン」が誕生した。首都はジュバ。長年にわたって内戦が続き、多くの人々が犠牲になった地だ。各国による豊富な自然資源の争奪戦や利権争いがすでに始まっている。平和な国づくりができることを願う✦全国高校野球の県大会が始まった。震災の被害を受けた東北の高校には特別なエールを贈りたい◆アメリカのスペースシャトル計画が今回の打ち上げで幕を閉じる。NASAは今後、火星への有人飛行を目指すそうだ。2030年代半ばまでに火星軌道に人を送り込むと言う。火星は月までの距離の150倍だと言う。SFの世界が現実のものとなるのもそう遠くはなさそうだ▼7月に入ってから円高傾向が続いている。今年3月の最高値を更新するのか。海外に行く人は増えるかもしれないが、輸出業に携わる企業は大丈夫なのか■やっぱり出た、放射能汚染の牛肉。福島県の農家が出荷した牛肉から高濃度のセシウムが検出された。農家への対応はどうなるのか。消費者への影響は？▲米ボーイング社が新型ジェット旅客機787型機を製造し、世界に先駆けて日本のANA(全日空)が運行する。機体の約5割がカーボン新素材でできていて従来のものより20%も軽量化され、強度はなんと鉄の9倍だ。この機体には日本の先端技術がふんだんに使われ、準国産と称されている。やっぱり日本の技術は大したものだ。やっぱり、2番じゃなく、1番じゃないとダメなんじゃない？●7月11日で震災から4ヶ月目。被災地の避難所で暮らす人々に連日の猛暑が襲っている。抽選で仮設住宅に入居した人たちも猛暑には辟易している。一向に進まぬ瓦礫の処理。ハエや虫による衛生問題など、被災地に暮らす人々の生活には目立った改善が見られない。首相がいつ辞めるかなんかを話し合うよりも、被災地の復旧に全身全霊であたってもらいたい。“被災地の問題は永田町で起きているんじゃない、現場で起きているんだ”。(照井)

Let me remind you . . .

★JAAC生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください。

◆就職活動をする JAAC 生の皆さんへ： 今年の秋にロサンゼルスとボストンでキャリアフォーラムが開催されます。開催予定は、ロサンゼルス(10月7日(金)、8日(土))、ボストン(11月11日(金)～13日(日))です。詳細は、<http://www.careerforum.net/event/> をご参照ください。

この他、インターネット上では海外大学卒業生(見込み者)を対象としたジョブフェア等の情報が掲載されますので、随時、各自でインターネットや就職情報誌での検索を行ってください。

●JAAC 本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 tokai@jaac.co.jp 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：t.suzuki@jaac.co.jp ©カリフォルニア担当：照井 k-terui@mtg.biglobe.ne.jp